

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：23903

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26861933

研究課題名(和文) アレルギーの子どもと家族を支える地域ケア体制の課題と看護職間のパートナーシップ

研究課題名(英文) Issues with community care systems supporting children with allergies and their families, and partnership between nurses

研究代表者

山口 知香枝 (Yamaguchi, Chikae)

名古屋市立大学・看護学部・講師

研究者番号：70514066

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：まず、アレルギーの子どもを育てる養育者に対して、現在活用しているサポートの果たす役割と効果についてアンケートとインタビューを併用して実施した。現段階で分かっている結果は、未就学の子どもを養育者にとっては、保育園や幼稚園からのサポートの重要性が示唆された。その他、レストランのメニューや様々な食品のアレルギー表示を頼りにしているという結果もあり、社会的な取り組みの重要性が示唆された。今後は、養育者へのインタビューをさらに集積するとともに、アレルギー疾患の子どもや家族に関わる専門職者等にもインタビューを行い、支援内容や他職種との連携協働の実際を明らかにしていくことが課題である。

研究成果の概要(英文)：First, we conducted a questionnaire and an interview about the role and effect of the support currently given to caregivers raising children with allergies. The results suggested that consideration from nursery school and kindergarten teachers, and the importance of avoiding allergens in school lunch, were important for preschool children. We also rely on restaurant menus and other food allergy displays, which suggested the importance of social initiatives.

In the future, we will conduct further interviews with caregivers raising children with allergies. In addition, we will interview professionals in fields related to children with allergic diseases and their families, and clarify the details of support and cooperative collaboration with other occupations.

研究分野：看護学

キーワード：アレルギー 家族 多職種 協働 育児支援

## 1. 研究開始当初の背景

### 1. アレルギーの定義と疫学

世界アレルギー機構の定義では「免疫学的機序で開始する過敏性反応である。」としており、過敏性反応とは「正常被験者には耐えられる一定量の刺激への暴露により、客観的に再現可能な兆候を引き起こす疾患(反応)」である。アレルギー疾患は乳幼児から高齢者まですべての年代で認められ、多様な症状がある。小児に関わる主なアレルギー疾患は、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎等がある。アレルギー疾患をもつ小児は年々増加している傾向にあるといわれており、特別な場合を除き、入院での加療は少なく、地域社会の中で生活している。

### 2. アレルギーに関する行政の取組み

厚生労働省では平成2年より研究事業を開始し、その他の施策を行ってきたが、これをより総合的かつ体系的に実施するために、平成17年に厚生科学審議会疾病対策部会リウマチ・アレルギー対策委員会において、アレルギー疾患に関する現状と課題および今後の対策についてまとめられた。平成23年8月には、「アレルギー疾患対策の方向性等」がまとめられ、リウマチ・アレルギー対策を総合的、体系的に進める方向性が示された。平成13年度からは、主に保健師を対象としてアレルギーに関する正しい知識の普及啓発を行う相談体制の確保を目的に「リウマチ・アレルギー相談員養成研修会」が年1回行われ、相談体制の充実を図っている。また、平成9年より厚生労働科学研究費補助金等を通じて、アレルギー疾患に関する調査研究の発展に寄与している。

アレルギー、特にアトピー性皮膚炎の子どもを育てる母親は、健常児の母親と比較し「子どもに問題を感じること」での育児ス

トレスは高かった(都築(山口)他,2005)。また、母親は「スキンケア」「睡眠」「食事」「環境整備」で生活困難を感じ、家族機能の適応性にも影響を及ぼしていることが明らかになった(山口他,2011)。従って、子どもだけでなく家族への支援も重要であることが分かる。これらをふまえ、アトピー性皮膚炎の子どもと家族への支援ポイントを明確にすることや支援の効果を可視化するために、アトピー性皮膚炎が患児とその家族に及ぶ影響のアセスメント尺度である「Childhood Atopic Dermatitis Impact Scale」日本版の開発を行った(Yamaguchi et al, 2016)。また、浅野の研究でもアトピー性皮膚炎の子どもの母親は看護専門職者に対するサポート源としての認識は、看護師より保健師のほうが高いことがわかっている(浅野,2002)。従って、必ずしも医師のみが重要なサポート源ではなく、看護職をはじめとするコメディカル等のサポートも重要であることや、保健師や保育士など、地域の専門職者の関わりの重要性も示唆された。

アレルギーの子どもへの支援を「医療チーム」で取組んだ例として、水野らは、医師、小児病棟看護師、病棟薬剤師と連携したアレルギーチームを結成し、気管支喘息患者用クリニカルパスを導入した結果、看護師の患者教育力向上、患者アドヒアランスの向上に役立つ可能性が示唆された(水野他,2012)。病棟以外で、地域の専門職者同士の連携として、飯尾らは、保育所看護職、保育士、その他の小児関連職種は、喘息をもつ子どもおよび保護者に対して、「情報提供」や「園内の環境整備」を行い、個別性を尊重した支援を行っていた一方、長期的なフォローアップやアセスメントをするための情報収集、子どもや家族への指導、医療機関の連携においては実施不十分であることが明らかになった(飯尾他,

2011)。

アレルギーをもつ子どもは地域社会の中で生活しており、患児と家族が豊かな生活を送るためには、様々な社会資源が連携・協働しながら彼らを支える地域ケア体制を構築していく必要がある。また、地域ケア体制の中で、保健・医療・福祉の各分野において、医療や生活双方から対象者に深くかかわる看護職の果たす役割は大きい。しかし、荒木らの保育園看護職の役割に関する調査で、様々な健康問題を抱える子ども達に対応するために、看護職同士の連携の必要性が示唆された(荒木他, 2003)。

看護職同士がどのようにパートナーシップをもって協働するかを追究することは、地域ケア体制充実のための一助となることが期待できる。

## 2. 研究の目的

1. アレルギー疾患をもつ子どもと家族が現在活用しているサポートが、どのような役割を果たしているかと認識しているか、またその効果について、アンケートとインタビューを併用して縦断的に分析し、明らかにする。
2. アレルギー疾患をもつ子どもと家族に関わる専門職者等にインタビューを行い、行っている支援、他職種他機関との連携・協働への認識や期待とその実際を明らかにする。
3. 上記を通して、アレルギーの子どもと家族を支える地域ケアシステムの現状と課題を明らかにし、その中での看護職間のパートナーシップのあり方を追究する。

## 3. 研究の方法

第1段階：目的1

1. 研究デザイン: 質的研究及び量的研究のミックス法

2. 調査内容: アレルギー疾患をもつ子どもと家族が、地域ケアシステムの中でどのようなサポートを受けているか、その役割や効果について、アンケートとインタビューを併用して伺う。

3. 対象者の選定: 小児期のアレルギー疾患をもつ子ども(未就学児)の主たるケア提供者(母親)

4. 調査内容

- ・インタビューと質問紙を併用して行う。
- ・総合病院及びクリニックでの面談は個人で行うが、患者会ではフォーカスグループインタビューを行う。

- ・使用する予定の質問紙

- ・アトピー性皮膚炎の家族の QoL 尺度「JCMV-CADIS」

- ・気管支喘息の子どもの養育者の QoL 尺度「養育者用気管支喘息 QOL 調査票(QOLCA-24)」。

- ・WHOQoL26

- ・インタビューは半構成的面接を行う。

7. 分析方法: 質的に内容分析を行う。また、QoL 指標の変化を解析することによって、質的インタビューの内容を補完する。

第2段階：目的2

1. 研究デザイン：質的研究

2. 調査内容: アレルギー疾患をもつ子どもと家族に対し、どのような支援を行なっているか、他職種他機関との連携・協働への認識や期待することとその実際についてインタビューする。

3. 対象者の選定: 目的1の調査の中で、アレルギー疾患をもつ子どもと家族のサポート源として語られた専門職等に依頼する。

4. 調査方法

各専門職等に半構成的インタビューを行う。

5. 分析方法

支援の内容と多機関多職種との連携協働への認識や期待に焦点を当てて、質的に内容分析を行う。

### 第3段階：目的3

小児看護，母性看護，地域看護，小児保健の各分野の研究者とのディスカッションを行い，第1段階，第2段階で得られた知見を統合し，アレルギーをもつ子どもと家族を支える地域ケア体制のモデル（仮説）に照らして，現状と課題を明らかにする。また，地域ケア体制の充実の観点から看護職同士がどのようにパートナーシップをもって協働するかを追究する。

### 4．研究成果

現段階で分かっている結果は，未就学の子どもの養育者にとっては，保育園や幼稚園からのサポートの重要性が示唆された。その他，レストランのメニューや様々な食品のアレルギー表示を頼りにしているという結果もあり，社会的な取り組みの重要性が示唆された。今後は，養育者へのインタビューをさらに集積するとともに，アレルギー疾患の子どもや家族に関わる専門職者等にもインタビューを行い，支援内容や他職種との連携協働の実際を明らかにしていくことが課題である。

#### 【参考文献】

浅野みどり(2002); 母親が看護専門職から受けたサポートの活用経験と認識 アトピー性皮膚炎の乳幼児をもつ母親の場合，日本看護医療学会雑誌 4巻1号 7-13(2002)

荒木 暁子，遠藤 巴子，羽室 俊子，佐藤 秋子，三好 順子: 岩手県の保育園保健の実態と看護職の役割(2003)，岩手県立大学看護学部紀要，5巻，47-55(2003)

飯尾 美沙，二村 昌樹，前場 康介，大矢 幸弘，竹中 晃二(2011); 地域における気管支喘息を持つ子どもへの支援の現状および課題，日本小児難治喘息・アレルギー疾

患学会誌，9巻3号，271-277(2011)

水野 桂子，兼松 直子，石井 靖子，田中 晶，磯崎 淳(2012); アレルギーチーム結成後の小児気管支喘息患者用パス導入による看護師の喘息指導の実施に関わる検討，日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌，10巻3号，269-274(2012)

都築(山口) 知香枝，石黒 彩子，浅野 みどり，三浦 清世美，山田 知子，奈良間 美保(2006); アトピー性皮膚炎の子どもをもつ母親の育児ストレス，日本小児看護学会誌，15巻1号，25-31(2006)

山口 知香枝，石黒 彩子，浅野 みどり，藤丸 郁代，山田 知子(2011); アトピー性皮膚炎が患児の家族に及ぼす影響，小児保健研究，70巻2号，245-251(2011)

Chikae Yamaguchi, Masaki Futamura, Sarah L. Chamlin, Yukihiro Ohya, Midori Asano; Development of a Japanese Culturally Modified Version of the Childhood Atopic Dermatitis Impact Scale (JCMV-CADIS), 65(3), 312-319(2016)

### 5．主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

Yamaguchi C, Futamura M, Chamlin SL, Ohya Y, Asano M. : Development of a Japanese Culturally Modified Version of the Childhood Atopic Dermatitis Impact Scale (JCMV-CADIS), Allergology International, 65(3), 312-9, 2016

Yamaguchi C, Sasaki K, Asano M. The family impact of childhood atopic

dermatitis: Scoping review. NursingPlus  
Open 2018;4:1-7.

〔学会発表〕(計 2 件)

Chikae Yamaguchi, Midori Asano: A study  
of factors determining parenting stress  
in mothers of children with Atopic  
Dermatitis, 12th International Family  
Nursing Conference, Denmark, 2015.8

山口知香枝, 浅野みどり: アトピー性皮膚  
炎の子どもの家族インパクト(JCMV-CADIS)  
と育児ストレスの関連, 第 35 回日本看護科  
学学会学術集会, 広島県, 2015.12

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究代表者

山口 知香枝 (YAMAGUCHI, Chikae)

名古屋市立大学看護学部・講師

研究者番号: 70514066

(2)研究分担者

( )

研究者番号:

(3)連携研究者

( )

研究者番号:

(4)研究協力者

( )